



鬼ごっこ 6

氷鬼

【標準バージョン】

氷鬼（こおりおに・凍り鬼）は、地方によってルールが若干異なると思いますが、共通しているのは「捕まったら凍った状態になる」ことです。「タッチされたらしゃがんで両手で自分を抱きしめるようにして固



まる」「タッチされたときの体勢で動くことができなくなるように固まる」など決めておいてもよいでしょう。

通常、固まった状態は、他の子にタッチしてもらうことで解かれます。タッチする際に「お湯！」と声をかけるやり方もあります。

まず、じゃんけん等で「鬼」を決めます。鬼は一人の場合も複数の場合もあります。鬼は決まった数をかぞえ、みんなはその間に逃げます。全員が捕まったらおしまい、あるいは、時間を制限して鬼が捕まえた数を競います。

工夫1「レンジでチン！」

凍っている人を助けるときに、2人で同時にタッチしなければなりません。その際は同時を示す合図が必要なので、例えば「レンジ

でチン！」と声を合わせます。

工夫2「対抗戦」

2チーム対抗戦で、それぞれのチームの鬼が相手チームの子を捕まえます。同じチームの子を「お湯！」と言ってタッチで助けます。

工夫3「対抗戦でレンジでチン！」

2チーム対抗戦です。チームメイトを助けるとき、2人で同時に「レンジでチン！」をします。



【標準バージョン】

「だろけい（泥警）」も鬼ごっこの一種です。「けいだろ（警泥）」「だろじゅん（泥巡）」などとも呼ばれます。

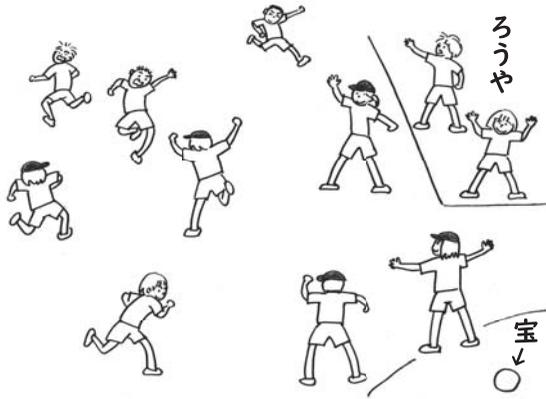
最初に「泥棒」と「警官」の半々に分かれ、警官は泥棒を捕まえます。泥棒は捕まったら、あらかじめ決めておいた「牢屋」に入ります。捕まっている泥棒は、他の逃げている泥棒仲間にタッチしてもらえれば牢屋から逃げることができます。

泥棒が全員捕まったらおしまいとなり、警官と泥棒が入れ替わって再スタートです。

工夫「お宝泥棒」

牢屋の隣に、警官が大切に保管している「お宝」（ドッジボールやサッカーのボール）を置きます（お宝置き場を遠くに設定するのもOKです。そうすると警官が分散して警備する必要が出て、より複

雑になります)。
 泥棒はお宝を盗み、あらかじめ決めておいた自分たちの「アジト」に届けます。途中で警官に捕まったら、お宝を戻して牢屋に入ります。



アジトに届けることができれば、その時点で泥棒の勝ちです。

警官は攻める(捕まえる)だけでなく、お宝を守ることも必要となります。泥棒も逃げるだけでなく、攻める(お宝を盗もうとする)スリルが味わえます。



鬼ごっこ 8

増やし鬼

【標準バージョン】

「増え鬼」「ゾンビ鬼」などとも呼ばれます。最初に、一定数の鬼を決めます。捕まったらその人も鬼になります。全員が捕まって鬼になったらおしまいです。時間を決めて、逃げ切ろうとしたりもします。

工夫「手つなぎ増やし鬼」

捕まった人は、鬼と手をつないで2人1組で鬼となります。さら